

「Cmab 毎週療法」について

この治療法は、頭頸部癌の代表的な治療法です。Cmab はセツキシマブの略称です。

1. 投与方法

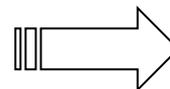
薬剤	効能または使用目的	投与時間
デキサメタゾン＋ ファモチジン＋ クロルフェニラミン	インフュージョン・リアクション予防	30分
セツキシマブ	抗がん剤	60～120分※1
生理食塩液	観察時間	30分

※1: 1回目は120分、2回目以降は60分で点滴することもあります。

2. スケジュール

Cmab 毎週療法は7日サイクルで抗がん剤を投与していきます。

	1サイクル目			
	1日目	2～7日目	8日目	9日目～14日目
投与日	○		○	
休薬日		○		○



3. 特徴

●セツキシマブ

作用: がん細胞表面の EGFR(上皮細胞増殖因子受容体)へ結合し、EGF(上皮細胞増殖因子)の働き(細胞増殖)が抑制されます。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感を感じたらお知らせください。



4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

皮膚障害

セツキシマブの投与により、以下のような皮膚に対する副作用が現れてきます。

- ・ニキビのような発疹や吹き出もの(好発時期:1~4週)
- ・皮膚の乾燥やひび割れ(好発時期:3~5週以降)
- ・かゆみ
- ・爪周囲の炎症(好発時期:4~8週以降) など

対策: 予防的なスキンケアが皮膚障害の発現を少なくすることが分かっています。日常生活で以下のような対策を取っていただくことをお勧めします。

- 入浴やシャワーで清潔を保持し、入浴後は乾燥を防ぐことを心がける
 - ・刺激の少ない石鹸等を使用する
 - ・熱いお湯やシャワーは避ける
 - ・入浴後は保湿剤を塗布して乾燥を防ぐ
- 外出時は直射日光を避ける(紫外線対策)
 - ・SPF(30)、PA(++)などの日焼け止めを使用する(汗をかいたときは塗りなおしてください)
 - ・帽子や長袖などで直射日光を防ぐ

日常生活以外では、薬剤を使用することで予防や、治療を行うことがあります。

- ・抗生剤の予防的内服:ミノサイクリン
- ・保湿剤:へパリン類似物質クリーム、ローション
- ・ステロイド:ヒドロコルチゾン軟膏、ベタメタゾン軟膏、ジフルプレドナート軟膏 など

下痢

好発時期: 当日~数週間の間にご起こることがあります。

対策: 水分を多めに取って脱水が起きないように心がけてください。

頻回の水様便や発熱を伴う場合はご相談ください。



注射時反応(インフュージョン・リアクション)

好発時期: セツキシマブの注射によって起こる可能性のある症状です。

主な症状は発熱、悪寒(さむけ)などです。まれに頭痛や倦怠感などが起こることがあります。

予防としてセツキシマブの投与前に抗ヒスタミン剤とステロイドを投与します。

セツキシマブの投与終了後、症状が出ないか観察時間をとらせていただきます。

異常を感じたらスタッフにお知らせください。

2回目以降は起こりにくくなるのが特徴です。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう(漏出)ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れ、などがあり、場合によっては血管に沿って症状が出てくるときもあります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

好発時期: 点滴している間が最も多く、まれに帰宅数日後に症状が出てくることがあります。

対策: 抗がん剤の種類によって対策が異なります。基本的には患部を温めたり、軟膏や注射による治療を行います。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表:TEL 028-626-5500